



1 アライダシ原生林にほど近い急峻な山地では、風力発電が行なわれています。太古の森を背景に、最新鋭の風車が見られます 2 矢作川の支流にあたる上村川は、随一の清流と呼び声が。こうした穴場スポットが上矢作町にはいくつも存在します 3 モリアオガエルが産卵した池には、アマゴが泳いでいました。素晴らしい場所ですが、原生林の入り口に過ぎないということに驚きます 4 大船神社本殿には、立川和四郎三代當重が彫ったという獅子の彫刻が眠ります。すばらしい文化財に富んでいるのも、上矢作町の魅力です



左) シカが角を研いだ痕跡。山道を歩いていると、野生動物の気配を感じるものが随所にあります 右) トレイル上に落ちていた巨大なホオノキの実。6月ごろに大きな花を咲かせたあと、たくさんの種を持った実をつけます



1 共生木/サワラ(左)とミズナラ(右)が木の途中で融合し共生。全国にも「連理木」などと呼ばれるつなげた樹木がありますが、これほどのスケールのは珍しいそう 2 弁慶杉/大船神社に位置する、樹齢2500年といわれるスキの木。かつて境内には宿坊が30ほどあり、修験者たちが行に勤しんでいました。周囲では平安時代の陶器の欠片が見つかることも 3 根上がり木/倒木の上に生えたことで、またぐように根が上がったヒノキ。倒木は腐ってしまい、原型がありません。まるで昇り龍のような装いで、見る者を圧倒します

# アライダシ原生林を守る

約10ヘクタールの国有林を、中津川営林署と上矢作町の関係者が保存を求め、協力・合意したのが平成6年。

以来、「自然観察教育林」として、町教育委員会とまちづくり委員会が整備を進め、平成23年からはNPO法人福寿の里自然倶楽部がその役割を担っています。アライダシ原生林の入り口にたたずむ樹齢400年のミズナラに一礼し、自然あふれる森の中を歩きました。

## ▼巻頭特集▼ 恵那に残る神秘の森

### 誰もが息を呑む自然の宝庫へようこそ

原生林という言葉が聞くと、どこかの山深い場所を想像する人も多いでしょう。しかし、アライダシ原生林は恵那市街地から1時間ほど。ただし、標高1100メートルの入り口までは、「この道でいいの?」と不安になるくらい、霧がかかった山道を抜けないと到着できません。この森に惚れこむ人が多いことは、原生林を歩くとすぐにわかりました。みずみずしい森の空気、さえずる小鳥の声、あふれんばかりの若葉の緑。アライダシ原生林は街に暮らす人々の心に不足しがちな栄養素がすべてそろっているかのような、癒しの空間でした。

ガイドを務めて5年となる川上隆三さんも虜になったひとり。常々、反省をしながら切磋琢磨している解説を聞くと、森の正式名が「アライダシ自然観察教育林」と呼ばれるゆえんがよくわかります。「ほら、これはイノシシやタヌキが作った獣道ですよ。こちらは、通称『共生木』。サワラとミズナラが途中でくっついて、共に暮らしているんです。自然のものは隣人を排除するのではなく、仲間と

共存している。その知恵に圧倒されますよね。川上さんが見つけるものすべてが、自然の営みを感じさせます。感激しながら歩いていくと、ペパーミントのような香りと爽やかな甘みの葉をつけるタムシバの木、アカゲラと呼ばれるキツツキが枯れ木にずらりと穴を開けた「アカゲラのマンション」を発見。さらに、根が上がったように生えた「根上がり木」、森のダムと呼ばれるブナの大木があるなど、どれも奥深い森で見られないものでいっぱい。プログラムの参加者に「こんないいところがあったのか!」

といわしめる理由は、生き生きとした自然の躍動感にあります。心安らぐ感動を軸に地域の活性化を

中津川営林署のスタッフ以外にはほとんど知られていなかったアライダシ原生林に、スポットが当たり始めたのは平成18年。上矢作町まちづくり委員会が誕生し、地域の魅力を発掘する中で存在感を高めていきました。現在、NPO法人福寿の里自然倶楽部の理事長を務める渡会三治さんは、「平成23年に私たちがNPOを立ち上げたのは、森の存在をさらに広めたいと思ったからです」と設立のきっかけを話します。メンバーに共通するのは、「豊

かな自然で上矢作町を元気にしたい」という願い。「信号も、コンビニもない町ですが、自然だけどこにも負けないはず。一部の人だけではなく、住民みんなにこの山見えてみ!、どいうだ、この川の美しいこと、と自信を持ってほしい。地元を出ていく子どもにも、この町の素晴らしさを忘れないでほしいのです」と同NPOで事務局を務める横光八州男さん。エコリズムの基本精神である「観光によるまちづくり+環境保全」にのっとり、アライダシ原生林以外にも観光地周辺の遊歩道・林道を整備。その規模は年間180人工、20ヘクタールにおよびます。

整備に汗を流すいつぼうで、あの切実な思いも抱えています。「人を見て逃げ出す野生動物を見るたび、ここは人が入ってはいけない場所なのかもしれないと感じる、とあるガイドが呟いたんです。たくさんの人に訪れてもらいたい。だからこそ、観光と環境保全を両立できる方法を考えるようになりました。ガイドたちの葛藤は今も続いています。町内の小中学生も、ガイド付きで環境学習に訪れるというアライダシ原生林。その魅力を保存するという大仕事は、未来を担う地元つ子たちの肩にかかっています。自然への畏敬を感じるアライダシ原生林を、まずは一度訪れてみてください。

### 身も心も洗われる、上矢作とおきの異空間にいごまいか



NPO法人福寿の里自然倶楽部  
理事長 渡会 三治さん(中)、  
事務局長 横光 八州男さん(左)、  
ガイド 川上 隆三さん(右)

同NPOはアライダシ原生林のほか、大船神社や遠原渓谷、林業・百姓文化といった、上矢作町ならではの“宝物”をベースに、将来的には地域福祉の充実や自然遊びができる森づくりなどをしたいと考えています

Information

### アライダシ原生林トレッキング

**【開催日】**  
7月17日(日)、9月18日(日)、  
10月16日(日)、11月3日(木・祝)

**【時間】**  
9:00~15:30(弁当は持参)  
※集合は道の駅「上矢作・フォーレ福寿の里」、  
現地までは車乗り合わせ

**【料金】**  
2,500円  
(小学生は半額。ガイド料、保険料、入山料含む)  
\*ほかにも、モンゴル子ども自然キャンプや  
大船山・松並木トレッキングなども開催。  
詳しくはウェブを参照

**アライダシ原生林の利用について**

ツアーでなくとも通年利用できますが、事前にNPO法人福寿の里自然倶楽部が、恵那市観光協会に連絡のうえ、入山料(200円)を支払うこと

**【問】**  
NPO法人福寿の里自然倶楽部  
TEL 0573-47-3151  
MAIL kinomi@nposizen.enat.jp

活動メンバーのほか  
正会員、賛助会員も募集中!  
WEB <http://fukujyu-no-sato.com/>



ARで  
動画をチェック!  
森の中を  
探検できます